

とうきょう すくわくプログラム実践報告書

所在	東京都江戸川区
園名	アスク西一之江保育園

1. 活動のテーマ

こっき
～オリンピックイヤーならでは！！外国について知ることで、世界に目を向ける～

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)

- ・園内プログラムの中で英語があり、英単語の発音や英語での挨拶、ABCソングを歌うなど楽しそうに参加する姿があった。
- ・保育者が発する英語に興味を示し、真似して発音する姿が見られた。
- ・他クラスに外国人がいる中で、肌の色の違いに驚くとともに興味を示していた。
- ・園全体を通して多国籍の子どもが多く、外国に興味を持てる環境である。

2.

<テーマの設定理由>

- ・肌の色の違いだけでなく目や髪、の違について認識し、差別や偏見なく関わりを持てるような気持ちが持って関われるようになってほしいため設定した。
- ・オリンピックイヤーとの事もあり、多様性の時代の中で日本だけでなく海外の国にも目を向け、さまざまな特性を知ってほしいと感じたため。

2. 活動スケジュール

11月から3月まで行い、月に1回ネイティブの講師を招致し他国の文化に直接触れる機会を創出することで深く探究活動ができるようにする

11月：アメリカと日本の有名な食べ物やスポーツを見て知ったり、発音したりする。

12月：カナダ、パキスタン、アルゼンチン、スイスの有名な食べ物やスポーツを見て知ったり、発音したりする。

1月：自分だけのオリジナル国旗を作成する。(無地の旗にクレヨンで描く。)

2月：カナダ、パキスタン、アルゼンチン、スイス、アメリカ、日本の国旗を見て、講師に言われた特徴を探し、ボールを転がし倒すゲームを行う

3月：クラスで1つ作成した旗を披露し、描かれているものを発表する。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

- ・世界地図や国旗のイラストを用意し、保育室内に掲示した。
- ・旗や国旗を描くために色鉛筆や折り紙、のり、絵の具を用意した。

4. 探究活動の実践

アメリカと日本についての話をする。→ 子どもたちが発言できる機会を設け、イラストを見て答えるようにした。

国旗のぬりえを行う。→ 国旗の種類を増やし、自由に選べるようにした。

色合い関係なく、国旗に興味を持てたことについて褒めながら他の国に興味を持てるよう声掛けを行った。

世界地図掲示し、国旗イラストを使用する。→ 様々な国の旗を知れるように、世界地図や国旗イラストを保育室に掲示する。

絵の具、折り紙を使用した。自分のクラスのイメージをして取り組めるようにした。混雑しないよう順番を決めて作業していけるようにした。

<活動の内容>

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

- 11月：みんなの住んでいるところは日本という場所であり、他の国を知っているか？
を問いかけた。→自分の知っている国を答えようとする姿が見られる子と
友だちの発言に興味を示す子がいた。
- 12月：色塗りしている国の名前や色合いについて問いかけた。その後、国名や色合い
について知らせる。→「どこにあるの?」「面白い柄だね」など子どもたち
自身の気付きや興味を持つ姿が見られた。
- 1月：様々な国の旗があることを知らせる。→世界地図を指差し、自分たちはどこ
に
住んでいるのか保育士に尋ねたりする。また、外国の旗に以前より興味を
持つようになる。
- 2月：クラスの様子や雰囲気イメージは何かと問いかけ、実際に何をテーマにして
いくか決められるようにした。クラスをイメージする色を決め、自由に描く
ことを楽しんでいた。絵に関しては描きたいものがまとまらず言い合いに
なることも見られた。
- 3月：活動前にはもう一度旗のテーマについて触れ、作成した経緯や楽しかった
思い出で盛り上がった。また旗の疲労の際は自信を持って何を描いたのか
発表していた。

5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

- ・国旗のイラストで分かりやすい導入だったこともあり興味を示すことが出来た。
- ・国によっての特色やイメージなどの理解度は低く、関心を高めるためにはより分かりやすい内容で説明や取り組んでいく必要があると感じた。
- ・国旗や国のことを繰り返し触れてきたことで興味が高まっている為年度ごとではなく、内容を引継ぎ深掘りしていくことでより子どもたちへの興味関心、知識を高めることに繋がっていくと感じた。

ほく
きいろがぬりたい!

アメリカみたいなの
ししまがいい!



かんがえたイメージを
じょうさいにえがいてきます。
あこしあうできあがる
「おなほぐおこっきに
うれしやうなしやうじやうが」
みられました。
しつひつとつこどもたちも
ていねいにとりかします。
やとあやう



うまく
ぬれるかなあ...



とうきょう すくわくプログラム実践報告書

所在	東京都江戸川区西一之江 3-45-10
園名	アスク西一之江保育園

1. 活動のテーマ

オリンピックイヤーならではの！
外国について知ることで世界に目を向ける

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)

園内のカリキュラムの中で英語があり楽しそうに参加する姿があった。
また、室内にあった国旗の絵本に興味を持ち、友だち同士で読み合う姿があった。
英単語を学ぶだけでなく、各国の文化や生活にも興味を示してもらえるよう促してい
く。

<テーマ>

<テーマの設定理由>

オリンピックイヤーとの事もあり、多様性の時代の中で日本だけでなく海外の国にも
目を向けられるようにしていきたいと考え、テーマを設定した。
また、国旗の絵本に興味を持っていたため、さらに知識を深めていきたいと考えた
め。

2. 活動スケジュール

11月から3月まで行い、月に1回ネイティブの講師を招致し他国の文化に直接触れる機会を創出することで深く探究活動ができるようにする

身近な日本とアメリカに視点を置き、有名な食べ物やスポーツ、国旗を比べて見て学び、発音をした。

他国にも目を向け、主に様々な国旗について学んだ

白い紙にクレヨンで自由に国旗を描き、特徴を話し合った。

各国の特徴を英語で伝えられ、クイズ形式で答えたり、その国旗を狙ってボールを転がして倒したりするゲーム遊びを行った。

自作した国旗を見せ、描かれている色や模様を英語で答えていった。

新たな国の国旗を学び、クイズ形式や仲間探しのゲーム遊びを行った。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

主に国旗の絵本を使用して海外に目を向けられるよう促した。

部屋の壁に各国の国旗や世界地図を張り、常に子どもたちの目の止まるように環境を設定していった。

絵本は子どもたちが自由に見られるように保育室の本棚に置くようにしたことで興味関心を深められるようにしていった。

旗や国旗を描くために色鉛筆やクレヨン、絵の具を用意した。

4. 探究活動の実践

子ども会議を行い、日本とアメリカについて学んだことを話し合った。

国旗の絵本や地球儀を用いて様々な国に興味を持てるように促していった。

色鉛筆、クレヨンを使用し、自分の旗を描いた。

クレヨン、絵の具を使用してクラスの国旗を作った。

<活動の内容>

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

各国の国旗の絵を見て「かっこいいね」「おもしろいね」と興味を持つ姿があった。

新しい国について学ぶと絵本を見て復習する姿が見られた。

クラスの国旗作りは行事で使用したことや自分たちらしいイメージを話し合い、楽しそうに自由に描き進めていった。

色を塗る時には英語で色の名前を言ったり、描いたものを英語で伝えようとしていたりする姿があった。

5. 振り返り

様々な国について国旗から入ったことで子どもたちからも興味を示しやすい導入ができたのでよかった。

一つの物をみんなで作り上げることでクラスの団結がより強まった様子が見られた。

今後は世界地図も提示しながら国の形や日本からの距離にも着目していきたい。

あはじこっきほ
どこだろう...

みんなが作ったこっきを
みせてくれたものや
ぬいたいろをえいごで
は、はようしていきました。

レッドを
さがして
みよう



どこに
あるのかな〜

これわたしが
かいたやつ

じがんとちでつくったこっきを
とおしていろいろよくにの
こっきにさらにきょうせを
もうようになしました。
こどもたちといっしょに
あがほりしなげらいろいろは
してんでまはんでいきまほ。

したのほうに
あるよ

とうきょう すくわくプログラム実践報告書

所在	東京都江戸川区西一之江 3-45-10
園名	アスク西一之江保育園

1. 活動のテーマ

こっき

オリンピックイヤーならではの！！外国について知ることで、世界に目を向ける（めろん）

（テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など）

オリンピックが開催されている時期に、遊びの中で真似して遊ぼうとする姿が見られた。運動会の演目曲にも使用することで「オリンピックの曲だ～」と言い、オリンピックに再度興味を示していた。また、国旗に興味が出てきて友だち同士でクイズを出し合う姿も見られている。

<テーマ>

<テーマの設定理由>

オリンピックや国旗に興味を示してきている姿が見られ、興味がまだなかった子へ良い刺激になると感じた。まずは自国のことを調べ、特色を知った上で、様々な国のことにも知っていけるようにしていきたいと感じたため。

2. 活動スケジュール

11 月から 3 月まで行い、月に 1 回ネイティブの講師を招致し他国の文化に直接触れる機会を創出することで深く探究活動ができるようにする

11 月：アメリカと日本の有名な食べ物やスポーツを見て知ったり、発音したりする

12 月：カナダ、パキスタン、アルゼンチン、スイスの有名な食べ物やスポーツを見て知ったり、発音したりする

1 月：自由に国旗を作ってみよう（クレヨンで描く）

2 月：カナダ、パキスタン、アルゼンチン、スイス、アメリカ、日本の国旗を見て、講師に言われた特徴を探し、ボールを転がし倒すゲームを行う

3 月：手作りのクラスの旗を披露し、描いた動物を英語で言う。国

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

（活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具）

図鑑や地球儀を使用し様々な国の国旗や特色を探したり、クレヨンを使用し自分の国の国旗やクラスの国旗を作ったりした。

4. 探究活動の実践

図鑑を見て知った有名なものを発表し、全体で確認していき興味が沸いているようだった。図鑑を見て知った有名なものを発表し、全体で確認していった。その国がどこの地域に属しているのか興味を示していた。

友だち同士で見せ合ったり、伝え合ったりできるようにした。友だち同士で認め合い、楽しみながら想像力を膨らませていた。

動物を描くことを決める時も話し合いを行い納得していた。それぞれが好きな動物を描けるよう、様々な動物を提示していった

<活動の内容>

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

11 月：知っている国だった為、有名なもののカードで出てくると「知ってる～！」
「～もあるよね」と盛り上がっていた

12 月：知らない国もあったが、国旗が出てくると国名を言ってみたり、iPad の映像
に釘付けになったりしながら見入っている様子が見られた

1 月：今まで学んだ国旗のクイズを楽しんだ後、見本の国旗を見て想像力を膨らませ
ながら思い思いに国旗を描いていた。「こんなものはどう?」「好きな食べ物は？」
など想像力が膨らむような声掛けを行った

2 月：「ライン」「スター」など特徴を知らせることで英単語に触れられるようにし
た

3 月：「カメレオン」「パンダ」など講師の発音を聞き、真似して発音していた。国
旗のゲームでは、自分の国旗が当てられるよう願っていたり、様々な国の国旗に触れ
たりしていた

5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

様々な国の特色を知り、興味が湧いている様子が見られたり、自分の国旗を描くこと
で自国や他国の国旗にも興味を示す姿が見られたりした。英語の講師に主導となり取
り組むことでより詳しく知ることが出来た。すくわくプログラムを通して、様々な国
のことや国旗に興味を示すきっかけとなった。

とうきょう すくわくプログラム実践報告書

所在	東京都江戸川区西一之江 3-45-10
園名	西一之江保育園

1. 活動のテーマ

音楽絵本を創ろう（ぶどう組）

絵本の情景や登場人物の気持ちなどイメージしたものを身近ものや楽器で表現する

（テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など）

年少の頃にオペレッタで劇を行った為、音楽絵本と聞くとすぐにイメージが出来ている姿があった。

目の前のことに集中してしまい、日常にある様々な音にはあまり興味を示さない様子があった。

<テーマ>

<テーマの設定理由>

歌やリズム遊びが大好きな子どもたちだが、文字や絵本にあまり興味を示さない姿が多くあった。

音を通じて絵本を楽しみ、親しめるようテーマを設定した。

また、日常の中で音にも気付けるようになって欲しいと考えたため。

2. 活動スケジュール

1 1月から3月まで行い、月に1回音楽の講師を招致し楽器の演奏や歌声など本物に触れる機会を創出した。

曲を聞いて感じたこと、聞こえた音を絵に描いて表現していった。

「くれよんのくろくん」「ブレーメンの音楽隊」の絵本を効果音付きで音に触れた。

気持ちを表す音に興味を持てるよう促していった。

廃材で作った楽器を使用し、音を鳴らしてみた。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

戸外や室内での音探しを行い、聞こえる音の違いについて話し合った。

廃材で楽器を作った。

絵本に合わせて楽器を鳴らして雰囲気味わえるようにした。

(ミュージックベル・アゴゴウッド・ハンドウッドブロック・タンブリン)

4. 探究活動の実践

戸外の音探しで歩く場所によって音の違い（コンクリート、砂、葉っぱの上など）について発見していった。

また、同じ机でも叩く、はじく、爪でひっかくなど音の出し方によっても変化があることに気付いた。

その学びの中で楽器を作り、どんな音を出したいのか考えながら作っていった。

<活動の内容>

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

戸外では砂場や落ち葉の上を歩き、音の変化を確かめながら音の変化に興味を持つ姿があった。

室内でも同じ机でも叩き方によってさまざまな音が出ることに気付く姿があった。

廃材の楽器作りではたくさんの廃材を用意し、イメージを膨らませられるようにした。作る過程の中で友だちのいいところを真似したり、自分のイメージを形にしたりしながら楽しく作っていき姿があった。

完成した時には友だちと音を鳴らし合い、音の違いを楽しんでいた。

5. 振り返り

< 振 り 返 り に よ っ て 得 た 先 生 の 気 づ き >

どんな音が鳴るのか、叩き方によってどう音が変わるのか子どもたち同士で考えながら音を探す姿があり、身近な音にも興味を示すことが出来たので良かった。

楽器作りではイメージした音を出せる子もいればイメージと離れている子もいたが出た音を楽しみ、新たな音を探す姿があった。

じっさいにえほんにあわせてつくれた
がっきをならしてみました。
じぶんのぼんがまちきれはいこどもたち。
とってもしぎやがは おんがくえほんが
できあがりました。



ほくほゆらして
おとをだすんだ。



わたしはたいてい
ならすんだよ
こんはあとほんだ



ハ

とうきょう すくわくプログラム実践報告書

所在	東京都江戸川区西一之江 3-45-10
園名	アスク西一之江保育園

1. 活動のテーマ

音楽絵本を創ろう（めろん組）

絵本の情景や登場人物の気持ちなど、イメージしたものを身近なものや楽器で表現する

（テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など）

朝読書を行う中で様々な平仮名に興味を示し、読もうとする姿が多く見られてきて、より一層絵本に親しみを持つ姿が見られた。

友だちの思いを想像することが課題となり、想像することが出来ず友だちとのトラブルに繋がることもあるが、絵本を深く読み込むことで登場人物の気持ちを考えようとしている。

<テーマ>

<テーマの設定理由>

絵本を読むだけでなく登場人物の気持ちを考えたり、場面に合った音を探したりする中でクラスの子どもたちなりの絵本を創っていきたいと感じた。

楽器遊びも好きで鉄琴や木琴、ピアノカも楽しんで行う姿が見られていた為、楽しみながら活動に取り組み、絵本創りが出来ると感じた。

2. 活動スケジュール

1 1月から3月まで行い、月に1回音楽の講師を招致し楽器の演奏や歌声など本物に触れる機会を創出した。

11月：音を聞いて感じたこと、想像したものを絵に描く（2曲）

12月：くれよんのくろくんの絵本を読みながら音に触れる

1月：ブレーメンの音楽隊の絵本を読みながら音に触れる
場面に応じた音や登場人物の気持ちを考えたりする

2月：ブレーメンの音楽隊の絵本を読みながら音に触れる
場面に合わせて音を鳴らしてみる

3月：ブレーメンの音楽隊の絵本を読みながら音を鳴らす

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

（活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具）

戸外へ散歩に行き様々な音を聞けるようにしたり、手作り楽器のため、廃材（空箱、チラシ、シール等）や輪ゴム、ペットボトルのキャップなどを保護者へ声を掛け持って来てもらったりした

（ミュージックベル・アゴゴウッド・ハンドウッドブロック・タンブリン）

4. 探究活動の実践

11月：音を聞いて感じたことを発表できるようにし、子どもたちへ刺激を与えたり、共感したりしていた

12月：作った楽器を友だちと見せ合ったり、音を聞かせ合ったり出来るようにしていた。また、感じた音を言葉で伝えようとしていた

1月：手作り楽器を鳴らし合い、工夫したところを伝え合ったり、音を聞かせ合ったりする時間を設けることで、共有していた

2月：・子どもたち同士で考え役割を決めたり、話し合ったりしながら進めようとする姿が見られた

<活動の内容>

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

11月：友だちの思いや感じたことを基に、新たな気付きがあった様子で自分が感じたことを絵に描こうとしていた為、一人ひとりの絵に対して話を聞き、受け止めたり、褒めたり、共感したりした

12月：音楽を流しながら物語を読んでくれたため集中して見ていた。場面のイメージを言葉やリズムで表現し、楽しんでいる様子だった

1月：物語に見入っている様子だった。読み終わった後には「～に会った時はどんな気持ち?」「そんな時はどんな音がいいのかな?」と問いかけられ、考え発表していた

2月：絵本を読み、どの場面に音を鳴らしたいのか問いかけることで役割を決めようとしていた。高い音なのか低い音なのか等も子どもたち同士で話し合っていた

3月：みんなで決めた配役に合わせて登場人物の足音や心情を考え、音を出そうとしていた。「ごはんを食べる音がする」「ロバの足音だね」「いいね」と褒めていた。

5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

音を聞いて感じたことを絵に表すことが初めてだったが、想像力が育っている様子を見る事が出来た。友だちと言葉のやり取りを行うことが上手になってきている為、良い刺激をもらえているように感じた。反面、友だちの感じたことや絵を見て真似して描く子もいた為、より自分の想像力を豊かに出来る活動とは何か考える機会になった。また、自分の楽器を創ることで物語をより深く読み込み、登場人物の気持ちを考えようとしていた。その場面に合わせて楽器を創ったり、音を鳴らしたりすることで友だちとの関わりも多く見られていた。



どんとおとが
いいかな...?

くらい〜ジツから
おし〜おし〜



こんなおとほ
どう?

いいね!!



おはよしにあわせて、おとをならし
とくじょうじんぶつのもちをかんがえたり。
どんとおとが いいのかを そうぞうしてり
している ことまでちがえて。
みんなぞかんせいさせて。おんがく
えいもん! すてきなさくひんにてまりました。

とうきょう すくわくプログラム実践報告書

所在	東京都江戸川区西一之江 3-45-10
園名	アスク西一之江保育園

1. 活動のテーマ

音楽絵本を創ろう
～絵本の情景や登場人物の気持ちなど、
イメージしたものを身近なものや楽器で表現する～

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)

- ・楽器遊びへの興味関心が高かった。
- ・絵本の読み聞かせが好きでセリフなどを口ずさむ姿が見られた。
- ・相手の思いに気付かず強引に関わりを持ってしまう子どもが多い。
- ・幼児クラスになると年齢ごとで違いを付けながら発表会で表現する楽しさを味わえる環境がある。

- ・歌やリズム遊びが好きな子どもたちだが、文字や表現に対して関心が見られなかったため。
- ・絵本を通じて擬音やオノマトペを知るとともに、表現する楽しさを感じることで発表会に向けての導入に繋がると思ったため。
- ・生活する中でさまざまな音に気付けるようになってほしいと考えたため。

2. 活動スケジュール

1 1月から3月まで行い、月に1回音楽の講師を招致し楽器の演奏や歌声など本物に触れる機会を創出した。

11月：音を聞いて感じたこと、想像したものを絵に描く。(3曲)

12月：くれよんのくろくんの絵本を読みながら音に触れる。

1月：3びきのこぶたの絵本を読みながら音に触れる。

場面に応じた音や登場人物の気持ちを考えたりする。

2月：3びきのこぶたの絵本の読み聞かせをされながら音に触れる。

場面に合わせて音を鳴らしてみる。

3月：3びきのこぶたの絵本を読み聞かせに合わせて音を鳴らして発表する。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

- ・ 戸外、室内にて目を閉じて自然に聞こえてくる音探しを行う。
- ・ 聞こえてきた音に対してどんな雰囲気か、どんな色かを話し合う。
- ・ 絵本を用いて繰り返し読み聞かせを行う。
- ・ 3びきのこぶたの絵本をカラーコピーし、保育室内に掲示する。
- ・ 身近な玩具から場面に適した音が無いかを考えて音を作り出し、鳴らして楽しむ。

4. 探究活動の実践

11月：戸外や室内で音を聞き、どんな音に感じたかを話し合った。

12月：室内にある玩具や物を使用して保育室内にある音に気付けるようにした。

1月：絵本の場面に応じてどんな音が必要になるのか考えるとともに、実際に音を出しながら見つけていきながら場面に会っているかを話し合っていた。

2月：絵本の読みかせ、内容や場面の確認をしながら作り上げた音を披露しあうとともに作り上げた音には共感、賞賛を行い、自信を持って表現すること出来るようにしていた。

<活動の内容>

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

- 11月：散歩中に音に気付けるよう、自然物の動きなどについて声を掛けていた。
その中で音の気付いた子の言葉に耳を傾けてみんなで注目すると、共感をされる嬉しさを感じている様子が見られた。
- 12月：保育室内ではどんなものが楽器になりそうかをみんなで考えていった。新しい音を発見しようと色々なものに手を伸ばしている姿が見られた為、保育者が場面に出そうな音や物についてヒントを出しながら関わりを持った。
- 1月：絵本の読み聞かせをしていく中で設定理由に挙げていた擬音やオノマトペに着目して表現できるように声を掛けていった。絵本の中の場面から想像しながら擬音やオノマトペの表現を出していた。
- 2月：前回子どもたちと一緒に音遊びを楽しんだことを振り返りながら、絵本の場面ごとにどのように作った音を当て込んでいくのかを話し合う。子どもたちだけの案は難しいが保育者の声掛けやヒントをもとに場面や雰囲気についてじっくり考える姿が見られた。
- 3月：講師が実際に絵本を読んでいる時には自分の番が来たら考えた音を鳴らして楽しむ姿が見られた。言葉と音が一致することで喜ぶ姿が見られた。

5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

- ・音楽絵本への興味は高かったものの、自分たちで考え、実際に音を作り出していくという工程は3歳児にとっては難しいテーマだと改めて感じた。
- ・保育者の声掛けをもとに子どもたちにも意見を引き出して実際に形にして1つのものを作り上げることは子どもたちにとって良い経験になったと感じる。
- ・11月からすくわくプログラムが始まったこともあり、設定理由である発表会への導入は出来なかったが、年度初めから取り組んでいけば良い導入、表現の幅が広がっていくと思った。
- ・擬音やオノマトペなどの表現を知ること、絵本内の情景や相手の気持ちにより気付いていけるようになると思う為普段から言葉について気にかけていくとともに活動に取り入れていきたい。

うーん...
なんかちとちがうなあ
どうしたらグッグッ!
なるんぞう?



クラクラ...

おおかみにぎのおうちが
こわさねちせうおと!



クラクラ...

クラクラ...

グッシャー!!

おおかみが、ぶくおと



フウ~! フウ~!! フウ~!!!

とうきょう すくわくプログラム実践報告書

所在	東京都江戸川区
園名	アスク西一之江保育園

1. 活動のテーマ

身体の動かし方

～ジャンプ力、走力、押す、引く力、柔軟性、バランス能力などの体カテストをし、数値だけではなく、得意不得意を自己分析、評価をし、自分の得意分野を活かしたスポーツや遊びは何かを見つけ、不得意なものを克服するにはどうしたらいいかを考える～

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)

全体的には体を動かすことが好きで、積極的に楽しく遊んでいる姿が見られている。内容を理解できていない子へは援助する。

2. 活動スケジュール

11月から3月まで行い、月に1回体操の講師を招致し身体の動かし方について子どもたちの前で実演をしたり、探究心を書き立てる。

11月：ジャンプ力、走力、押す、引く力、柔軟性、バランス能力などの体力測定をし、自分の出来る、出来ないを知る

12月：子どもたちが考えた遊びを発表し、力が育つようなヒントを出していく。

1月：子どもたちが考えた遊びを行うことで、記録が伸びているかどうか、体力測定を行う

2月：グループごとに考えた遊びを披露し、子どもたちや講師から感想やアドバイスをもらい、さらに運動能力を伸ばせるように取り組む。

3月：自分が取り組んできた運動の体カテストを行う。結果が伸びたかどうか知るとともに友だちの成長に興味を持つ。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

グループ別に話し合える場を作り、部屋やホールで十分に体を動かせる環境を作る。

運動マットやバランスストーンなども用意する。

ロープやたけうま、サッカーボール、ジャンプシートを使用し、様々な身体の動かし方を検証する環境づくりをする。

4. 探究活動の実践

11月：保育者の言葉を聞き、どんな遊びが出来るのか考え、実践する。

12月：遊びを通してどんな力が育つのか考えていた。友だちのやっていることに興味を持つ。

1月：子どもたち同士で話し合い、互いの意見を聞いたり、伝えたりしていた話し合いが進まないところへはヒントを与える。

2月：グループごとに体を動かせる環境をつくと積極的に挑戦する姿が見られた。

3月：自分の最終結果を伸ばすために自ら頑張ろうとする姿が見られる。

<活動の内容>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

11月：運動能力の内容を一つひとつ楽しめている様子が見られた。友だちの真似を意欲向上へと繋がる姿もあった。保育者も見守り、援助しながら一緒に参加する。

12月：体を動かすスペースを確保し、安全に配慮しながらそれぞれのグループに分かれて運動遊びをする姿が見られた。内容が分からない子へは配慮の声掛けをする。

1月：体力測定の結果を聞き嬉しそうにし、喜ぶ姿が見られた。

2月：各グループに分かれてテーマに沿った遊びを考えていった。なかなか、自分たちで発案をするのが難しかった為、保育者が入り、ヒントを与えながら進めていく

3月：最終測定結果を行い、自分が成長したことに喜ぶ姿が見られた。また、以前よりも友だちの結果に興味を持つ子も増え、拍手をおくる姿もあった。

5. 振り返り

自分たちの力で発案するという事は難しかったが、自分たちが今まで体験したことや見たことなどのヒントを与えることにより思考の幅が広がる事ができた。どんな遊びをしたら運動能力が上がるのか、身体と脳を同時に動かすことにより、さらなる成長が感じられた。子どもたちからの積極的な発言もあり、全体的に自ら取り組もうとする姿が見られていた。理解が難しい園児に対しては模倣から導入できると良い。



マットもつよくおしてみよう!

どらやがたらうまくとべるかな?

や、てみよう

じうせんするとあこしゆう
うまくできるように...
こどもたちもじうぶんの
ちからをしんじてなんども
ちゆうせんしていました。
ざいごはチームごとにはわかれて
できるよになつたあかたを
はっぴやうしあいました。
これからもひきつぎトレーニングを
してみようときまりました。

うごきまわす!

ひきをまげろ!



うーん...
でもうまくいかなかったよ

とうきょう すくわくプログラム実践報告書

所在	東京都江戸川区西一之江 3-45-10
園名	アスク西一之江保育園

1. 活動のテーマ

身体の動かし方

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)

身体を動かすことが大好きな子どもたちだが、遊びが固定化されてしまったり遊びの展開ができなかったりしていた。

苦手なことから逃げてしまう子もいた為できることを増やして自信に繋げていけるようにしていく。

<テーマ>

<テーマの設定理由>

出来ることに対して積極的な子どもたちであるが「苦手なこと」に対しては消極的な姿が見られていた。

今回のテーマを行うことで「苦手だな」「出来ない」から「出来るかもしれない」「頑張りたい」に変えていきたいと考えたため。

2. 活動スケジュール

11月から3月まで行い、月に1回体操の講師を招致し身体の動かし方について子どもたちの前で実演をしたり、探究心を書き立てる
ジャンプ、走力、押す力、引く力、柔軟性、バランス能力などの体カテストを行い、自分の出来る、出来ないを知る。
考えた遊びを披露し、さらに遊び方を考えたり、記録が伸びているかどうか体カテストを行ったりした。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)
子ども会議の場を設けた。
ホールや園庭など実践できる環境設定を行っていった。
ロープやたけうま、サッカーボール、ジャンプシートを使用し、様々な身体の動かし方を検証する環境づくりをする。

4. 探究活動の実践

頑張りたい種目ごとに分かれ、子ども会議を行った。
遊びを考えることは難しい姿が見られたため保育者がヒントを伝えたり一緒に考えたりして補助していった。
遊びの中で実際に行い、苦手を克服できるよう促していった。

5. ふりかえり

いつもの遊びの中で運動能力を伸ばせることに気付いたり、各活動の身体の動かし方、必要な動きが違うことに気付いたりできるよう促していった。苦手をできるに得意をよりできるように援助していった。
伸ばしたい能力を自分たちで決め、同じ目標を持つ子どもたちで子ども会議を行うことで関わりを深めることができた



どんなあそびに
しようかな～

ジャンプおにごっこ
ふんてどうかな？

どんなあそびをしたら
きろくがのびるのか
こどもかいぎをしました。
いろいろなあそびができてきて
まちきれないこどもたち
でした。

いざ、じらせん！
じりたんちでかんがえに
あそびをひろうしました。
あそびやすいようにルールを
ふいやしたのしむすかたが
ありました。
にがたなこともたのしみ
ふがらできるようにしていきます。



せほがが
のびてる！

おとさないように
ソーと ソーと...

とうきょう すくわくプログラム実践報告書

所在	東京都江戸川区西一之江 3-45-10
園名	アスク西一之江保育園

1. 活動のテーマ

身体の動かし方

ジャンプ力 走力 押す、引く力、柔軟性、バランス能力などの体カテストをし、数値ではなく得意不得意を自己分析、評価をし自分の得意分野を生かしたスポーツやあそびは何かを見つけたり、不得意なものを克服するにはどうしたらいいかを考えたりする

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)

全体的には体を動かすことが好きで、楽しく遊んでいる姿が見られている。運動が得意な子や苦手な子が居るものの諦めず挑戦しようとする姿が見られている。

<テーマの設定理由>

体力測定を行った上で自分が得意なことと苦手なことを知り、不得意だと感じていることにも挑戦できるようにしたいと感じた。また、遊びを通して得意なことは伸ばしていき、不得意なことにも挑戦し楽しみながら不得意なことを克服してほしいと考えたため。

2. 活動スケジュール

11 月から 3 月まで行い、月に 1 回体操の講師を招致し身体の動かし方について子どもたちの前で実演をしたり、探究心を書き立てる

11 月：ジャンプ力、走力、押す、引く力、柔軟性、バランス能力などの体力測定をし、自分の出来る、出来ないを知る

12 月：子どもたちが考えた遊びを披露したり、力が育つような遊びをしたりした

1 月：子どもたちが考えた遊びを行うことで、記録が伸びているかどうか、体力測定を行う

2 月：テーマごとに考えた遊びを披露し、子どもたちや講師から感想やアドバイスをもらい、より良い遊びを考える

3 月：取り組みたい活動の体力テストを行う。結果が伸びたかどうか知る

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

グループ別に話し合える場を作ったり、部屋やホールで体を動かせる環境を作ったりした。

ロープやたけうま、サッカーボール、ジャンプシートを使用し、様々な身体の動かし方を検証する環境づくりをする。

4. 探究活動の実践

保育者の言葉を聞き、どんな遊びが出来るのか考え発表し、共有しようとしていた。

その遊びを通してどんな力が育つのか考えていた。

遊びを行う中で展開しようとしていた。

子どもたち同士で話し合い、互いの意見を聞いたり、伝えたりしていた。

それぞれのグループが体を動かせるようにすると、伸び伸びと過ごす姿が見られた。

<活動の内容>

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

11月：1つずつポーズを覚えてもらいながら取り組み、楽しめている様子が見られ、友だちの様子を見て応援したり、自分も頑張ろうという意欲に繋がったりする姿が見られた。保育者も見守ったり、援助したりし一緒に参加する。

12月：体を動かすスペースを確保し、それぞれのグループに分かれて運動遊びをする姿が見られた。危険にならないよう止まってもらったり、順番に取り組んだり出来るようにした。

1月：体力測定の結果を聞き嬉しそうにしたり、残念がったりする姿が見られた。もう一度同じ種目に取り組むか、違う種目に挑戦するか考えていた。

2月：グループに分かれてテーマに沿った遊びを考えていた。言葉で説明し順番に披露することで具体的に視覚から見せることが出来、見る側も集中して参加していた。終了後も「別のテーマの遊びをしたい」との声から、活動の時間を設けた。

3月：取り組みたい活動の記録が伸びているのか気になっている様子で測定を行っていた。「できた!」「のびた!」と喜ぶ姿が見られた。

5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

自分で考えた遊びだった為、苦痛になることがなく楽しみながら取り組むことが出来た。どんな遊びをしたらその力が育つのか考える力、友だちの意見を聞く力、一緒に意見を出し合い話し合う力、前向きに取り組む力が育ったと感じている。子どもたちからの積極的な言葉も多く、自ら取り組もうとする姿が見られていた。



あたらしくちょうせんしていものをきめ、
 ぎろくがのびるようになるためには
 どんとあそびがよいのか、かんがえ
 とりくまして...

あそびひらいて...

ボールをさわって
 みよう!!

フラフープのよみかから
 ぞういよう!...

からだのちからを
 マットにいれよ...

いまどきー!
 ひらきよう!!

